

~~~~~大研 大変お世話になりました~~~~~

## 大研の成果（主なもの）

### ○豊富な資料の収集・作成

祖谷地方に昔から伝わるものを年表に整理した表，市教委やそば打ち名人のお話など

### ○現地の方とのつながり

実際に現地に行って生の声を取材→教材研究・資料化

### ○振り返りの工夫

単元の各段階において，振り返りの書き出し例を変化させる工夫。

### ○見取りと意図的指名

子どもの考えを的確に見取って，意図的指名に生かす。

例）同じ根拠（カーさんの話）に注目しても，人によって意見が変わることを引き出す。

美しい自然と昔からの風景の「両立」を子どもから引き出す。 など

### ○学習問題づくりの工夫

・祖谷地方と徳島市の航空写真の比較 ・既習の大谷焼の学習も生かして

・「昔のよさを守る取り組み」へ意識が向くように，意図的に方向付け

### ○教室掲示の活用

単元で学んだ資料（地域の方の声）を掲示しておいて本時に生かす。⇒「根拠」

本時のキーになる「古民家」の写真も掲示 実物を教室に置き関心を高める。など

### ○子どもの言葉でまとめを書く

教師のまとめを写す のではなく，子どもが考えた短い言葉で板書する。

### ○ICT（パドレット・メタモジ）などの活用

効率的か・効果的かという2点で活用場面を検討。 生のやり取りも大切に。

## <今後の研究>

ここからは先生方からご意見をいただいた「今後全校で共通理解して取り組むと良いこと」についてお知らせします。先生方から大事なご意見をたくさんいただきましたので，何回かに分けてお伝えしたいと思います。

「授業者以外も，時には実際に現地に行ったり授業者になったつもりで教材研究をして，学校・学年みんなで協働して授業づくりをしていくことを大切にしたい」というご意見をいただきました。

「学校・学年みんなで協働して授業づくりをすること」を，  
大切にしていきたいと思います。

## **全校で取り組むと良いこと～①対話や話し合いの力を伸ばすために**

子どもたちが、自信をもって発言したり、友達の意見をしっかり聴いて対話や討論をする力を伸ばすために、どのようなことをしていけば良いか多くのご意見をいただきました。

### **○子どもの良い姿を価値づける** ※どのような姿を価値づけるかの共有も大切 (例) 根拠がしっかり言えている姿 友達の意見を聞いてつなげている姿 頑張っていて発言した姿 友達ににあたたい反応を返した姿 など

- ・ 短く「今のいいね」「いい反応だね」「根拠も言えているね」「分かりやすいね」「発表者を見て聴けているね」「教室の端の友達まで聞こえる声だね」など
- ・ 時には「今の発言どこが良かったと思った？」のように他の子に問いかけたり、「その反応で友達が意見をつなげやすくなるね」のようにじっくり伝えたり。
- ・ 相手意識や、根拠や理由を大切にすること、考えをつなげていくことなどを前向きに育てていく。

### **○対話や話し合いの良さ・楽しさを味わえるように**

- ・ 子どもの多様で個性的な発想を**教師も一緒に楽しむ**。→安心して意見を発表できる。
- ・ 正解のない問いについて、意見を聴き合う**良さ・楽しさを味わう経験**を。  
※「みんなで話し合ったら色々な視点が出てきて深まったね」  
「正解がないからこそ自由に意見が言えて楽しいね」  
「今の反論、深いなと思ったよ」 など価値づけも大切。

### **○発言した子に対して、自然な反応を返すことを大切に（つぶやきなど）**

- ・ まずは「発表者を一人にしないで、友達がしゃべりたくなるように何か反応を返そうよ」と伝え続ける。→子どもの姿が がらっと変わる！
- ・ 「そっかあ」「ちょっと違うかな」「え～」「いいと思う」「分かる分かる」など自分なり自然なつぶやきを返したり、「似ています」「つけたします」「反論です」など自分の考えの立場を言いながら挙手をしたり、うなずくなど言葉以外で反応を返したり・・・教師が促していく。  
※「いいです」など、全員で声をそろえて言う必要はないそうです。

### **○子どもの発言を他の子につないでいく**

- ・ 教師が子どもの発言を引き取って解説するのでなく、「みんなはどう思う？」「つなげて」「反対はある？」などつなげる（広げる）働きかけをする。

### **○その他大切なこと**

- ・ 最初はぼそぼそでもよい。長い目で少しずつ。育っていくのをじっくり待つ。
- ・ 社会科だけではなく、全ての教科等で意識していく。
- ・ まずは小グループからでも伝え合う経験を。
- ・ 話型などを使うかは子ども自身が決めるといいのでは？（型にあてはめすぎない）
- ・ ルール化ではなく、できるだけ子どもが自身の言動を考えるように。

講師先生から「認識と判断に焦点化しているのは、主張したいことが明確で、研究の軸がしっかりしていて良いと思うよ」との言葉をいただきました。  
自信をもって、この研究をみんなで進めていきましょう！

